旧田代（たしろ）家西洋館

この西洋館は、有田焼を買い付けに来る外国人貿易商をもてなすために田代助作（たしろすけさく）（1890 年没）が 1876 年に建てたものです。長年の歴史の中で幾度も改修が行われ、2018 年には国の重要文化財に指定されました。

建物の建築様式は和洋折衷（和と洋の融合）になっています。ロビーのらせん階段の手すりは寺院の欄間の彫刻と同じ技術を用いて作られており、引き戸や畳敷きの床もあります。2014 年～2016 年に行われた復元工事によって、引き戸を覆っていた紙のデザインが明らかになりました。壁紙は、版画に貝殻を粉末にしたインクをつけ、それを伝統的な和紙で転写する方法で再現されました。地元の児童も伝統的な建築方法を使って土壁の一部を塗り替え、復元を手伝いました。

1920 年代から 30 年代にかけて、道路の拡幅のために屋根を短くし、ベランダを撤去していました。今回の修復では、建物全体を道路から後退させ、屋根とベランダを完全に復元することができました。

2 階の大部屋には 2 つのシャンデリアがあり、どちらも有田焼で作られた装飾皿を笠にして天井に取り付けられています。どちらの皿も明治時代（1868-1912）に作られたもので、有田陶磁美術館から貸し出されています。シャンデリアのロウソクの火から天井を保護することを目的に取り付けられました。カーテンには、19 世紀の英国人織物デザイナーであるウィリアム・モリス（1834-1896）の柄が施されています。